

令和6年度 兵庫県立伊丹高等学校 学校評価

1 スクールミッション

「誠実 克己 忠恕」の理念のもと、理解力、思考力、協働力、探究力を備え、世界や地域の課題を自分の課題として仲間と一緒に解決に向けて活動するグローバル・リーダーとして、これからの社会を切り拓くことのできる人材を育成する。

2 スクールポリシー

育成をめざす資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）
① 世界や地域の課題を自分の課題として、解決に向けて探究するとともに、仲間と一緒に活動する人物、グローバル・リーダー（GL）を育成します。
② 座学のみならず、地域等と連携した多彩な活動等に取り組み、将来予測が困難な時代に未来を切り拓くGLに必要な3つの心と4つの力を身に付けます。
3つの心……誠実・克己・忠恕
4つの力……理解力・思考力・協働力・探究力

3 自己評価 項目ごとに5,4,2,1点の4段階で評価。達成状況は、A…平均4.0以上 B…平均3.0以上4.0未満 C…平均3.0未満。

基本方針	基本的方向	施策	取 組	達成状況			取組状況・改善方策
				取組	昨年比	総合	
予測困難な時代を生き抜く力を育む教育の推進	「確かな学力」の育成	「確かな学力」の育成	1.指導計画の作成及び観点別評価と指導の一体化	B(3.9)	↑0.1	B	○探究の要素を取り入れた授業実践に多く取り組まれている。 ○探究活動を取り入れた授業に關して、他教科の先生方がどこまで意識して授業づくりをされているのかが見えず、自身の取り組みが校内でどのレベルにしているのかを把握しにくい。 ○これまでの学校全体の取り組みが浸透しており、生徒が主体性を持つと意識して学習することができていると感じる。教科横断は、探究の充実で達成できていると感じるが、さらに教科間の横断をどう図っていくかが課題であると感じる。
			2.新学習指導要領を踏まえ探究活動を取り入れた授業	B(3.7)	▽-0.1		
			3.生徒の学習意欲を喚起する指導の実践	B(3.7)	▽-0.6		
			4.教科等横断的な取り組みの実践	C(2.8)	▽-1		
		伝統と文化を尊重し グローバル化に対応する国際教育の強化	5.英語4技能試験の活用	B(4)	▽-0.3	A	○海外での活動を経験できる機会を多く設けられている。 ○本年度から台湾修学旅行も再開し、充実した国際交流が取り組まれていると感じている。 ○生徒が地域や国、世界を視野に入れながら活動を行うことができているように感じる。
			6.海外探究活動・海外語学研修の推進・実施	A(4.4)	▽-0.2		
			7.国際交流（姉妹校交流、オンライン活用）の実施	A(4.5)	±0		
		探究・文理横断・実践的な学びの充実	8.大学模擬授業等、外部人材の積極的な活用	A(4.1)	↑0.1	A	○特にGLIS類型の活動はボランティア等多岐にわたっている。 ○OSGiHのノウハウを継承しているので、充実しているように感じる。まだまだ活性化できる余地があると思うが、そのためには教師間の連携を今以上に密にする必要があるように感じる。 ○Q9に関して、これまでの活動を継続することにこだわりすぎて、生徒のアイデアや主体性を発揮させる取り組みが不足している。
			9.GLIS類型の活動活性化	A(4.3)	▽-0.1		
			10.探究的な学習活動の充実	B(4)	↑0.3		
	「豊かな心」の育成	人間力の育成	11.校訓に基づいた校風の醸成	B(3.4)	▽-0.3	B	○生徒たちが行事のことを考える機会が多く設けられている。 ○基本的には、生徒にいろいろな事を任せて活動できているが、携帯電話の使用、交通安全などのルール意識、規範意識が薄いところが気になる。校則を自由化を拡大していくのと同時に、規範意識も涵養していかないと何でもありにならないかという危機感を感じる。
			12.生徒会活動の活性化	A(4)	▽-0.1		
			13.生徒主体の県伊祭（文化祭）	A(4.2)	▽-0.1		
	「健やかな体」の育成	心・技・体の醸成	14.地域でのボランティア活動等の推進	B(3.3)	▽-0.5	B	○安全を第一に考えて活動できている。 ○思いを行動に移すのが、年々困難になっているように感じる。
			15.生徒主体の体育祭・球技大会	A(4.2)	↑0.1		
		健康教育・安全教育	16.活動方針に基づいた部活動の実施	B(3.9)	↑0.1		
			17.登下校等の安全確保	B(3.4)	▽-0.2		
			18.WBGTによる熱中症対策	B(3.7)	↑0.1		
安心・安全で質の高い学びを実現する	教職員の資質・能力の向上	教職員の資質・能力の向上	19.研究授業週間等、授業改善の取組	B(3.7)	↑0.1	B	○ロイロノートやcanva等、使える機能を積極的に使っている。 ○ここ数年、新教育課程への移行やICT活用への対応など、教育環境の大きな変化が続いており、落ち着いて生徒や授業に向き合う時間的余裕もでていない現状がある。今こそ生徒にも教員にも「ゆとり」ある教育環境が必要ではないか。 ○研究授業をするにあたって、授業の直前にテーマを考えられると準備やそのテーマへの理解が浅い付かず、その場限りのイベント授業になってしまう。年間計画を見据えたテーマの設定やチーム県伊丹としての方針が欲しい。 効率的に学校が運営されているように感じる。
			20.外部研修への参加・校内研修の実施	B(3.6)	±0		
			21.1人一台端末利用に向けた活用研究	A(4)	↑0.2		
		教職員の働き方改革の推進	22.校務支援システムの運用	A(4.3)	▽-0.1		
			23.定時退勤日、ノー会議デーの徹底	B(3)	↑0.2		
			24.情報セキュリティ徹底、情報資産の管理	B(3.9)	±0		
	学校の組織力の強化	情報共有	25.校内委員会等の活性化	B(3.7)	±0	B	○生徒の現状の共有は特にスムーズに行われている。 ○それぞれの持ち場で各先生方が役割を果たして貢献しているように感じる。自分自身も学校運営に貢献していきたい。 ○他の専門部が、どのような活動を行っているのか、共有出来たら協力体制を構築することができると感じる。
			26.いじめ・不登校への対応	A(4.3)	±0		
		外部機関との連携	27.地元企業・自治体・大学等との連携	B(4)	↑0.1		
			28.PTAと連携したミマモルメの有効活用	A(4.2)	±0		
自分らしく安心して過ごせる学校・家庭・地域等の構築	学校・家庭・地域との協働による豊かな学びの推進	家庭との協働	29.広報誌「緑樹」、生徒指導部通信の発行	A(4.5)	↑0.1	A	○ミマモルメを活用した連携・連絡が特にできている。 ○積極的に地域との活動が行われているように感じる。
			30.HP・ブログ等の発信	B(3.9)	↑0.1		
		地域への情報発信	31.生徒主体のオープンハイスクール	A(4.1)	▽-0.2		
			32.同窓会・PTAとの参画・協働	B(3.9)	▽-0.2		
			33.学校評議員会、学校評価の改革	B(3.8)	↑0.1		

5 学校評議員評価（総合）

○仲間を誇りに思うという答辞を残し、巣立って行った卒業生。県高で学んで良かったという思いが伝わってきました。今後も、仲間とともに諸課題を解決するグローバル・リーダーとして成長されるという思いを持ちました。アンケートでは、約9割の生徒や保護者が学校生活に満足していると、肯定的評価をしています。これは、先生方の日々の取組の成果だといえます。一方で、補習や課題、授業の工夫・改善、国際交流等については、肯定的評価が約6割に留まっています。先生方は、放課後も、生徒の質問や相談に丁寧に応えておられる姿を拝見しますが、個に応じた補習や課題について、また、国際交流のカリキュラムへの反映等について、更に組織的な取組をお願いします。 ○スクールミッション、スクールポリシーが単なるお題目ではなく、しっかり意識され、その具現化のために教育活動が行われていることがよく分かりました。（「誰のために、何のために、どんな風に」が明確である。） ○当たり前のことなのですが、すべての先生方が共通理解をし、教育活動に当たっておられることがよい成果につながっていると感じます。 ○今の時代、SNS等で便利な世の中になった反面恐ろしい時代になっていると実感します。良い情報・悪い情報全てが手に取るように分かります。生徒方に保護者・教職員の方々含め、情報だけでなく、古い考えになりますが、情報はあくまでも情報。善悪を決める・自分の為になる最終的な判断材料は必ず、自身の目で見て・話を聞き・肌で感じ、情報だけに左右されない教育をと思います。 ○海外交流、是非とも実施をお願いします。全く違う環境を、外の風景を感じる意味でも、是非とも海外交流の成功をと思います。 ○全体的に、優れている学校だと思います。グローバルリーダーという大義名分があるのだから、外部の声をひとつでも多く取り入れ、特色を今以上に上げていく施策が必要かもしれません。大人との接触機会を増やす、外部の講師からの授業、多方面の話を聞く、一番吸収出来る時期なので、様々な体験談、講義を聞くのは必要かと思います。公立高校を出て、大学へ行くと、カルチャーショックをくらいます。いわゆる井の中の蛙状態です。高校生時代に、いかに視野を広めて上げる事が重要かと思います。もちろん地域との繋がりも大切なので、地域への事業には積極的に参加をしてもらい、一人でも多くの大人と関わりを持たせることも必要ですね。評議員会の中で、防災体験をしていると記載がありました。ぜひ、冬の寒い時に、体育館で、一泊、もしくは2泊くらいの、避難体験をしてほしいです。その中で体験する事は、必ず防災の危機意識が醸成されると思います。そんなことを地域と共同で主催してほしいと思います。たすけあい精神、規則創り、リーダーシップ、おもいやり、そんな感覚が必要であると思います。 ○スクールミッション、スクールポリシーに基づき、教育の推進、改善が適切に行われている。兵庫県教職員資質向上指標による自己点検の結果も概ね高い数値を示しており、引き続き、GLIS類型、探究活動を通した生徒、保護者の学校満足度や、教職員間の同僚性の形成による職場満足度の向上を期待している。 ○数年学校評議員として貴校にお伺いするなかで、理念に基づく「理解力、思考力、協働力、探究力」の自己育成を促す教育土台が根付いていることを感じます。教職員のみならず、生徒自身が能動的に動く慣習が諸先輩方から引き継がれていることは学校の大いなる価値に発展しており、地元も子供たちと保護者にとって目指したい学校として評価される素晴らしい学校になっていると思います。
--

6 自己評価への学校評議員評価

評価項目ごとの評価
○9月の公開授業では、グループ学習を取り入れておられました。活発に意見交換する生徒の姿から、日々、学びを深める授業形態を工夫されていると感じました。 ○探求の活動に力点を置かれ、教育活動が展開されているのがよく分かりました。また、その活動が探求の授業以外の授業にも良い影響をもたらしているように思います。また県立伊丹高校の財産である地域で活躍する多くの卒業生と協力し、取組を進めておられるのも良いと思いました。 ○いろいろな苦労はあると思いますが、生徒自身が学校生活に満足し、いい表情で学習に向かっているように感じました。 ○確かな学力は充分であると感じます。国際感覚もあり、実践的な学びも経験できるのだと思います。しかしその3つの基本的な方向だけでなく、予測困難な時代を生き抜く力を醸成したのであれば、もっと違う観点ももたないといけないと感じます。いわゆるぬるい令和時代、昭和のような感覚も必要な時代だと感じるところもあります。いわゆる、自衛隊への合宿など、規律が厳しすぎる環境下に行くのもひとつ。徴兵制度を取り入れるという、時代にそぐわないと思いますが、ある一定期間、規律厳しい環境下に身を置き、国家のあり方を勉強する事は必要かもしれません。自衛隊では、合宿の研修もあります。是非、検討してみたいかでしょうか？ ○GLIS類型、探究活動ともに産官学連携を軸とした充実した内容となっている。また、活動内容が生徒の学習意欲の向上、主体的、協働的な学びにつながっていることがみてとれる。 ○総合B評価の「確かな学力の育成」についてコメントに記載の通り生徒自身が自身のレベルを把握できてこそ教科間横断フェーズへ移行できると思います。自身の取組みの方向性やロジックが教職員から見た時どうであるのかのフィードバックが綿密に実施できれば学力分野だけでなくその他の基本方向の発展に寄与するのではないかと感じております。
○雨で流れた体育祭を別の形で創り上げた生徒たち。また、生徒の思いをサポートされた先生方のご尽力に感謝します。生徒は、あきらめずに挑戦する大切さを学んだと思います。 ○生徒主体の活動は素晴らしいと思います。他校の事情は分かりませんが、主体で企画する事により、社会に出た際は自身の判断力は必要です。高校時代より経験を積み重ね将来への基盤になればと思います。 ○しかし、交通安全ルール意識とありますが、安全は全てに優先すると考え、何を行うも安全対策が施されての事だと思います。 ○地域とのつながりをもっと増やせれば良いのでは？自治協会のコラボで何か企画するなど、呼ばれていくのではなく、高校生から企画を持ちかけるなど。高校生主体の地域探求をする事は必要かもしれません。 ○令和4年の生徒指導要領改訂で明記された校則の運用や見直しについては、生徒、PTAを交える等、透明性の担保を意識しつつ、社会規範の遵守について適切な指導を行うことが重要と考える。 ○B評価ではありますが、本項目は貴校最大の魅力だと見えております。人間力はこれからの時代を生き抜く上で非常に必要であり学力だけではなく、生きる力として今後も積極的に取り組んで頂きたいと思います。
○部活動を通して、先生方が生徒の考えを大事にされていることを実感しています。また、生徒も、学習や他の活動を考慮しながら、部活動に熱心に取り組んでおり、サポートに力が入ります。 ○健やかな体は、睡眠、食事、運動。これしかないのて、ロウるさく、早寝、早起き、食事を言い聞かせないといけないでしょうね。 ○学校危機管理の観点からも、熱中症予防、施設管理の徹底等、生徒の活動が安全、安心な場であるかを常に意識し、関係各所と連携した危機管理体制の構築が重要と考える。 ○「思いを行動に移すことの困難さ」は社会人になってからも親になってからも続く課題かもしれません。総合評価という判断基準にとらわれず常に意識をする環境を提供し教職員・生徒共に取組み続けることが望ましい姿である気がしています。
○元氣な県高生は、元氣な先生方のもので育ちます。困難を要すると思いますが、先生方が生徒としっかり向き合うための環境を、ともに創っていただきたいと思います。 ○新しいことに取り組むのはハードルが高いかもしれませんが、しっかりと課題に向きあい、研修されているのが分かりました。 ○研究授業は一過性のものではなく、年間計画の中で位置付けられ、学校やチームとしての方針に基づいて行われPDCAサイクルで回し、授業が出来れば質が高まり、落ち着いて準備を進めることができるようになり、テーマ設定の段階での協力と事前の情報共有が重要ではないでしょうか。 ○民間企業で働く側として、定時退勤日・会議なし日の取り決めは魅力を感じます。教職員の皆様もご家庭を持っておられ又、健康第一を考えれば継続には幾つかの問題は出てくると思いますが、是非、実現に向け取り組んでくださればと考えます。 ○研修会社を招き、教職員の研修をしてください。特にアンガーマネジメント研修をお勧めします。 ○教育現場のICT化、デジタル化が急速に進む中で、リテラシーの高い特定の教職員に業務負担が偏るとの指摘もある。全体としてネットトラブルへの対応等、情報関連スキルの向上に努めることで、授業指導力の向上のみならず、業務のDX化による働き方改革を進め、教職員の職場満足度の向上につなげていただきたい。 ○昨年もコメントさせて頂きましたが、教職員の労働環境と学校の総合環境は必ずしも正比例しない部分が学校教育現場の難しさだと思います。教員の個に依存して良い部分と、AIに任せる部分の分離が急がれるのではないのでしょうか。一般企業では多いにAI導入が進んでいます。私自身もAIのお蔭で手薄になりがちであった仕事に時間が割けるようになり大活用しています。
○GLIS類型や探究活動について、生徒が笑顔で活動する姿を参観しました。企業や大学等と連携することにより、生徒の学びに広がりや深まりが感じられました。 ○私が企業の代表として、今を生き抜く力の醸成として、研修を行っても構いません。もしくは、緑窓会のメンバーにもたくさん経験を持つ方々もいますので、ぜひ、数名ピックアップを行い、講義をお願いしてみても？ ○教職員間に「同僚性」を形成し、学校がチームとして機能することを目指すとともに、課題に対しては未然防止、早期発見を意識し、引き続き、教職員間の情報共有に努めることが重要と考える。 ○「教育」以外のテリトリーにおいて教員がどこまで携わる必要があるのか見極める時期になっています。公立校のため資金源確保の困難さもありますが、教育外のアウトソーシング化が実現できれば内容の成熟度や上記の教職員の労働環境も上向くのではないかと思います。
○学校ホームページを拝見し、生徒が、仲間とともに様々なことに挑戦している様子が窺えました。緑窓会（同窓会）も、本会が持つ人的資産を教育活動に活かしていただけるよう、努めたいと思います。 ○様々な方法で広報活動を展開しておられ、成果が出ているように思いました。中学校の教員は高校の取組をあまり知らないところがあります。進路指導を行う上で、高校の情報、状況をしっかりと把握したいと思います。 ○ミマモルメの活用で学校からの連絡、PTA行事への呼びかけ等の生徒から保護者への連絡漏れが少なくなっていると感じます。今後は活動風景などの配信も視野に入れては如何でしょうか？。地域一体型への活動もより一層活発になるのではと感じます。インスタ・YouTubeを利用して、YouTubeは全てが見れなくアドレス取得者のみ見れる方法もあります。 ○保護者も含め、学校に招き、研修を受けてもらうのもひとつですね。保護者は学校へはなかなか行く機会がないため、行きやすい、見学しやすいオープンな学校創りは必要かもしれません。全体的に優等生な県伊丹、何か今までは違う事業を検討する。検討委員会を作ってもいいかもしれませんね。 ○引き続き、定期的な情報発信、同窓会やPTAとの連携強化を進め、地域社会における存在感を高めていただきたい。 ○プラスマイナスどちらであっても評価に動きがあることは今後の参考情報になると思いますが+0こそ改善の余地があるのではないのでしょうか。NO28の項目自体保護者にとって必要性のある内容なのか、停滞は衰退と表現されるようにミマモルメがSNSに代襲されているのであればその役割を終えており再考のタイミングかもしれないと感じました。